

大型カルバート個別施設計画



平成30年2月
筑北村

目 次

1. 大型カルバート個別施設計画の目的

- (1) 背景
- (2) 目的
- (3) 管理大型カルバート

2. メンテナンスサイクルの基本的な考え方

- (1) 基本方針
- (2) 定期点検・診断

3. 計画期間

(参考) 位置図



1. 大型カルバート個別施設計画の目的

(1) 背景

近年、我が国では平成24年12月に発生した中央自動車道笹子トンネルの天井板落下という重大事故、他のトンネルや橋りょうにおいても、コンクリート塊等の落下や落橋という事故が相次いで発生しており、社会資本の高齢化に伴う維持管理・更新が喫緊の課題です。

国土交通省は平成25年を「社会資本メンテナンス元年」に掲げ、平成26年4月の社会資本整備審議会では「最後の警告ー今すぐ本格的なメンテナンスに舵を切れ」と強い警告を発しています。

筑北村が管理する大型カルバートは、建設後25年が経過しています。コンクリート片の剥離、ひび割れ、漏水等の事象が顕在しています。

このような状況から、定期点検による確実な状況把握（早期発見）と点検結果に基づく確実な対策（早期補修）が必要となっています。

したがって、生活の利便性と安全性の確保、また地域活性化のためにも、限られた財源の中で効率的、計画的な大型カルバート維持管理を行う必要があります。

(2) 目的

この計画では、筑北村が管理する大型カルバートについて持続可能な維持管理体制を確立し、事後保全的な修繕から、早期措置的な修繕に転換することで、安全で安心な道路サービスの提供を行いながら、大型カルバート寿命を延命することで、必要予算の平準化と維持管理コストの縮減を図ります。

① 持続可能な維持管理体制の確立

…点検方法、点検頻度などを明確に定め、大型カルバートの健全度を把握し、早期対策を講じます。

② 事後保全対応から早期措置修繕への転換

…損傷が顕在した時点での修繕から、予防的に早期措置としての修繕に転換します。

③ 必要予算の平準化と維持管理コストの縮減

…中長期的な修繕計画により予算の平準化と、計画的かつ予防的修繕によりライフサイクルコスト（LCC）の縮減を図ります。

(3) 管理大型カルバート

筑北村が管理する大型カルバートは次のとおりです。

路線名	建設年	経過年	延長	幅員	所在地
宮ノ前線	H4	25年	17.0m	7.0m	筑北村坂北中村

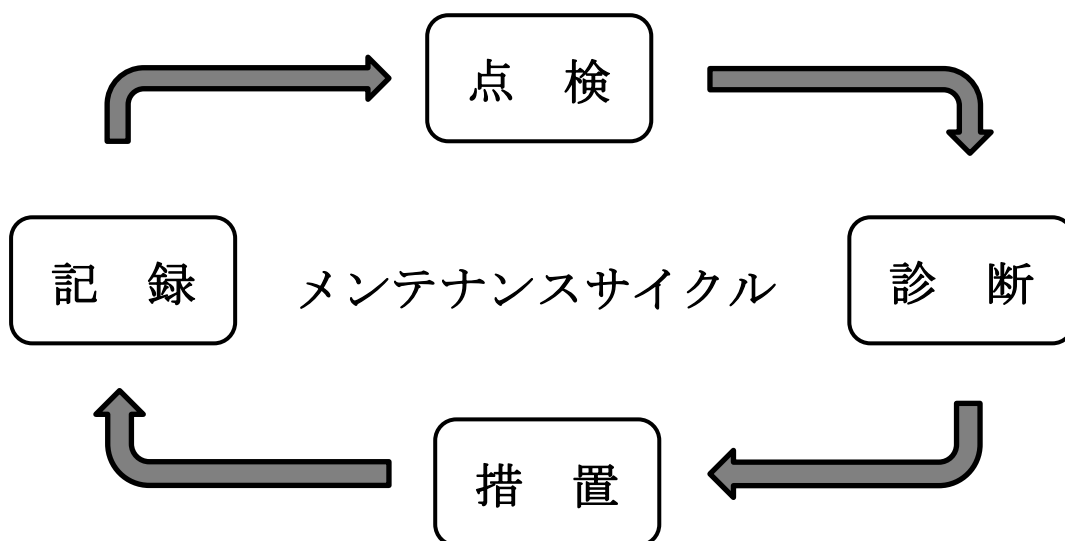
＊この大型カルバートはJR篠ノ井線と交差しています。

2. メンテナンスサイクルの基本的な考え方

(1) 基本方針

道路トンネルの老朽化対策を確実に進めるため、点検から始まり、診断、措置、記録というメンテナンスサイクルを構築します。

メンテナンスサイクルの推進により、適切な維持管理を実現します。



(2) 定期点検・診断

筑北村が管理する大型カルバートの定期点検は「シェッド、大型カルバート等定期点検要領(国土交通省道路局平成26年6月)」に基づき実施し、5年に1回の頻度で、近接目視による点検を実施し、健全性を把握します。

①健全性の診断

定期点検結果は次の4段階の区分で判定し、区分に応じ着実かつ効率的・効果的に措置を講じます。

区 分		状 態
I	健 全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は乗じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

*「判定区分Ⅳ」は、変状発見後、緊急に措置します。

*「判定区分Ⅲ」は、変状発見後、5年以内に措置を講じます。

3. 計画期間

(1) 計画期間の考え方

5年に1回の定期点検サイクルを踏まえ、点検間隔が明らかとなるよう計画期間は10年とします。なお、点検結果等を踏まえ、適宜、計画を変更します。

路 線 名	計 画 期 間									
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
宮 ノ 前 線	5年に1回の頻度					5年に1回の頻度				
	点検	→				点検	→			
	点検結果に応じ次回点検までに					点検結果に応じ次回点検までに				
	←		補修	→		←		補修	→	